

<メディアウオッチ> 手抜き除染で石原環境相に二の矢放たぬ記者クラブ

上出 義樹

民主から自公への政権再交代で、筆者を含むフリーランス記者や雑誌・ネットメディアが強く懸念していたことがある。3年余前の民主党政権誕生を機に多くの省庁で条件付きながらオープン化された閣僚記者会見の門戸が再び閉ざされ、フリーランス記者らが締め出される心配だった。現実には、今のところ一部の省庁を除き、前政権の「オープン会見」が何とかほぼ同じ形で踏襲されている。

特ダネの朝日記者は定例会見で指名されず

そんななかで筆者は、閣議後定例会見が一斉に開かれた1月11日、いつもよく参加する外相や経産相、財務相の会見ではなく、石原伸晃環境相の会見に初めて参加した。朝日新聞が年明けに特ダネとして報じた福島第一原発周辺での手抜き除染問題で、担当閣僚の石原氏が説明責任を全く果たしていないからである。朝日の記者がこの問題を追及したら、自分も関連質問をしようと思っていた。ところが、朝日の記者は最後まで指名されず、除染問題は結局、だれも質問しなかった。以下は、自らの反省も込めた石原会見のミニ報告である。

沈黙守り説明責任果たさぬ担当大臣

朝日新聞は、放射能汚染地域から集めた草木を川に投棄するなどの手抜き除染がゼネコンの下請け業者らの間で横行し、それを環境省が放置していることを1月4日のスクープ以来、繰り返し報道。問題の11日の記者会見や石原氏の反応については翌12日付朝刊社会面で、「沈黙守る石原環境相」の見出しを付け次のように書いている。

「朝日新聞取材班の記者2人は11日の会見で最初に挙手したが、約17分間の最後まで指名されなかった。他の記者5人の質問で除染の話題はなかった」「環境省の中尾豊広広報室長が会見を打ち切ろうとしたため、朝日新聞記者は『大臣、除染の件で聞かせて下さい』『4日は何をしていたのですか』と呼びかけたが、無言で立ち去った。(中略)石原氏は4日の行動についてこれまでの取材に『覚えていない』と述べている」

他の記者は除染問題で追及なし

実は、この会見で質問した「他の記者5人」の中には筆者も入っている。この日の会見では、まず幹事社のNHK記者が、石原氏の冒頭発言に関連した低炭素社会の重点目標などについて質問。続いて、2番目か3番目に手を挙げた筆者が指名されたが、筆者の前列にいた朝日新聞の2人の記者の方が明らかに挙手は早かった。自分の知る限り、司会の広報担当が、記者クラブに所属する大手メディアに先んじる形でフリーランス記者を指名することはそう多くはない。

「幹事社の次とは珍しい」と思いながら、除染問題とは別の質問をした。朝日より先に口火を切るのをはばかれたためだが、「朝日外し」の広報の意図に気づかなかったのは自らの不明を恥じ入るばかりである。ちなみに、その前の8日の会見では幹事社が除染問題を質問したが、石原氏から説明責任を果たすような言葉は返ってこなかったという。

政治家や官僚から甘く見られるマスメディア

他社のスクープを後追いたくはない気持ちはわかるが、手抜き汚染は重大な問題である。自分のことを棚に上げるような話になるが、日ごろ環境省をカバーする記者クラブは一体何をしているのか。マスメディアの劣化と言えばそれまだが、朝日に代わり、二の矢、三の矢を放てないようでは、政治家や官僚にますます甘くみられるだけである。

ともあれ、こんな原稿を書くと、次回15日の定例会見では、11日のようには簡単に指名されないかもしれないのが、若干の懸念材料ではある。

(かみで・よしき) 北海道新聞で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士課程(新聞学専攻)在学中。